

「牛温恵」^{ギョウ オン ケイ}で分娩管理が楽々、分娩事故も大幅に低減

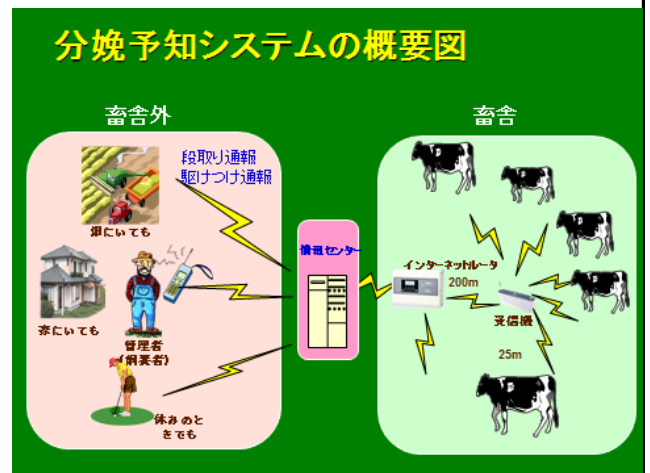
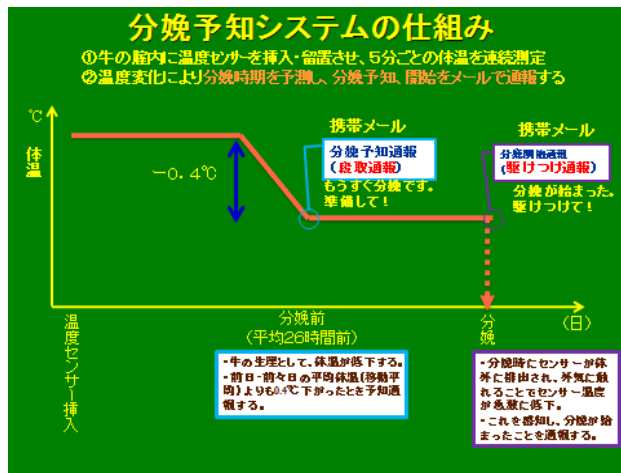
【研究のポイント】

・近年、飼養規模の多頭化により家畜の監視時間が減少し、分娩事故等による生産性の低下を招いています。無事に産ませてなんぼの世界、1頭たりとも子取りに失敗してはなりません！
 ・どんなに注意をしても起こる分娩事故、それを防ぐために家族での夜回りや外出制限による肉体的、精神的な疲労が牧場経営者の大きな負担となっています。
 ・課題の解決のため、平成16年、産官連携((株)リモート、産業科学技術センター、農林水産研究指導センター畜産研究部(当時試験場))で、以下の2つのコンセプトを掲げて「分娩予知通報システム」の開発に着手しました。
 ①分娩時に生理的変化する体温を利用した、出産時期の予測、および出産の開始を知らせるシステムの開発。
 ②飼養者の監視作業の軽減、出産時の立会いによる分娩事故の軽減。

【研究の成果】

【牛温恵とは】
 分娩予定牛の腔内に装着した温度センサーで5分毎、0.1℃単位で体温監視し「分娩の約24時間前」及び「1次破水時」を検知し、メールで通報するシステムからなり、以下の特徴を持ちます。

【牛温恵の機能】
 ①段取り通報
 分娩の約24時間前の温度の変化を感知し、メールで通報するので心の準備、分娩への準備ができます。
 ②駆けつけ通報
 一次破水時に温度センサーの放出による温度変化を検知し、メールで通報。メールを受け取ってから余裕を持って分娩に立ち会うことが可能です。
 ③SOS通報
 段取り通報後の温度変化を監視することで産みたくても産めない異常を検知し、メールで通報します。



分娩予知通報システム 特許第3938786号

【生産者の声】

導入以前に比べて、監視回数が減り、夜ゆっくり眠れるようになりました。また、前日に「段取り通報」が来るので、牛舎から離れる飼料作物の作業時期でも作業予定を立てることができ、安心して作業もでき、分娩にも立ち会うことが出来るようになり助かっています。

佐伯市宇目 相田 茂



【連絡先】

担当: 農林水産研究指導センター 畜産研究部 肉用牛繁殖・酪農チーム
 TEL : 0974-76-1216
 住所: 大分県竹田市久住町大字久住3989-1